

本町商店街振興組合

豊川駅前

本町だより



春号

理事長：田中粹人 組合員：生田米八・和田一夫・鈴木雄三

事務所：愛知県豊川市西本町4 7 番地

TEL 0533-95-7711

E-mail sn@smile-tf.com URL <http://honmachi.site>

2016.3.3 発行

2016年3月 第3回 本町だより

☆☆☆☆☆ 理事長報告・挨拶 ☆☆☆☆☆



田中粹人理事長
まだまだ肌寒い
日が続きますが、
三月となりました。
本町商店街も
初めて年を越す

ことが出来ました。今年の三が日は、天候にも恵まれて、飲食店や物品販売は大賑わいでした。初詣の賑わいが毎日のように続けば、商店街として大変うれしいことですが、まだそこまでの盛り上がりは見られません。この賑わいを毎日のように目指すには、商店街の皆様が協力し工夫し魅力ある店作りをしていかなければなりません。豊川稲荷ありきの個性のない商店街では人も集まってきません。すわポン・狐娘ちゃんマネーや、街ゼミといったイベントに参加するのも大切ですが、本町ナイトみたいな独自のイベントも開催しながら、商店街の「売り」を周知して行くことが今後も必要です。



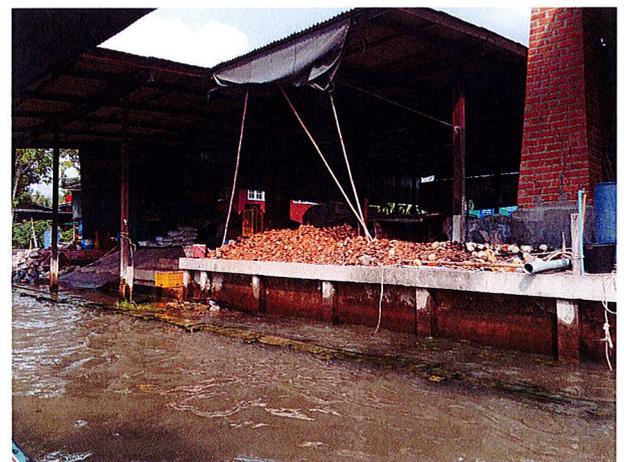
豊川より大きく発展しています。毎日のように賑わいや活気がある街に発展したことに驚かされます。

私は先月、10年ぶりにタイはバンコクへ研修旅行に行ってきました。バンコクはご存知の通り、今や国際都市であり、街としては



少し紹介しますと、日本と同じ仏教国であり、アユタヤ遺跡の観光客へのアプローチや繁華街、水上マーケットなど、常に集客できる

よう工夫がされているように感じました。それがバンコクの経済を支えているのでしょうか。私たちの商店街は、この取り組み自体をそのまま真似することはできませんが、学び、新しいことを発想することはできます。本町商店街は新たな街づくりの成功のためにも学び、発想し続けていきたいと思えます。



さて本町ナイトの開催は昨年通り10月に決定しました。半年刻みで開催を計画しておりましたが、他地域・他方面のイベント行事と重なったため、今年は他地域のイベントの研究期間と定め、カリアンナイトや豊橋の食べ歩き等、様々なイベントに参加し、豊川でできることを見出したいと考えています。どうか皆様も本町ナイト始め、多くの行事に参加頂けますようご協力お願い致します。

☆☆☆☆☆ 組合員・生田米八 ☆☆☆☆☆

本町商店街振興組合の将来を考える 森田屋酒店



商店街のことを考える前に、まず自分の店のことを振り返ってみたら？50年前のこと、私

が商いをスタートした時にある人が言った。『一人のお客の喜びのために誠実をつくし、一人のお客の生活を守るために利害を忘れる。その人間としての美しさこそ、わが小売店経営の姿としたい』いまだこの言葉を忘れないで活動していなければならないと思う。昭和9年、本殿の落慶以来、豊川の町の人々の努力により全国に知られた門前町となり、その中で我々は毎日営業している。昨年『本町商店街』が発足した。しかし、今まわりを見ると恐ろしいほどの変化が生じている。シャッター街といわれる通りを見て、何を感じるか云うのを待たない。では、せつかく集まった組合員は何を考えているのか。何をやろうとしているのか。私は先ず思う。組合員が話しあって、お互いの心を裸にして本音を出し合っ

☆☆☆☆☆ 組合員・和田一夫 ☆☆☆☆☆



た、少なくとも知り合っ、いろいろ商店街周辺のことどもを語り合おうではありませんか。何か金がなくても出来ることを皆で考えませんか。大変多くの問題が身近にあることに気付くと思います。目先のお客さんを、景品やイベントだけで集まってもら

うということではよいのでしょうか。あの店は楽しいよ、あの商店街はあたたかいよ、あの店へもう一度行こうよ・・・この店と顧客とのコミュニケーション、個々の店と店とのコミュニケーションをじっくりと深めていくことが大切なのではなかろうか。

の人々で賑わってききました。最近、世の中の変化は随分変わってきて、大型店・スーパー等、品数・値段どれをとっても敵うも



のは無いような時代です。でも個人店にはそれらに負けないものが沢山あると思います。店主同士、奥さん仲間、イベント等、皆で交流を深めたり、話し合ったり、横の繋がりが強いのも魅力です。気軽に立ち寄ってお茶でも飲みながら会話ができるのも商店ならではの魅力だと思います。近年益々お年寄りが増え、これからは優しい街作りも必要になってくると思います。目先にとらわれず、今ご来店くださった方に精一杯のサービスで答えていくことが大事だと思います。

☆☆☆☆☆ 組合員・鈴木雄三 ☆☆☆☆☆



商店街とは何なのか？そもそも地域活性化、まちづくりに必要なのは何なのか？ふとした時に考えることも

ありますが、常に考えているのは自店舗の現状とメニュー開発、人員の確保、サービスの向上、僕たち飲食業や特殊業以外の土、日休みの一般的な生活をしている人とのコミュニケーション、彼女との時間（笑）など自分のことを第一に考えているおでんのゆう三です。僕の持論としては、商店街の活性化、まちづくり、コミュニティなどうんぬんを考えるよりまずはちゃんと本業をがんばろうぜ！！ということです。みんながみんなまずは『自店舗を繁盛させる→商店街周辺以外の人が集まる→おのずと商店街が元気になる、活性化する』です。土地の適切な開放を地権者がやるのが、実は経済活動を踏んでしっかりと短期的にも儲かり、中長期的にはその土地の価値自体が上昇していくことも期待できると思います。『新しい商売に挑戦したい人』と共に『商売をして日銭を稼がないと食べていけない人』にも適切な機会を提供することが大事です。一度先入観を取り払い、目の前の曇りをとるつもりで取り組んでみるのが大切になってくると僕は思います。